データベースとしての古典文学
家族、人生、そして猫

20261113

担当　高芝麻子

目次

（１）自己紹介
（２）杉田の梅林
（３）杜甫の営み
（４）そして猫

自己紹介

横浜国立大学　教育学部　所属





領域：国語

専門：唐代の詩

ESDにも参加

（２）杉田の梅林



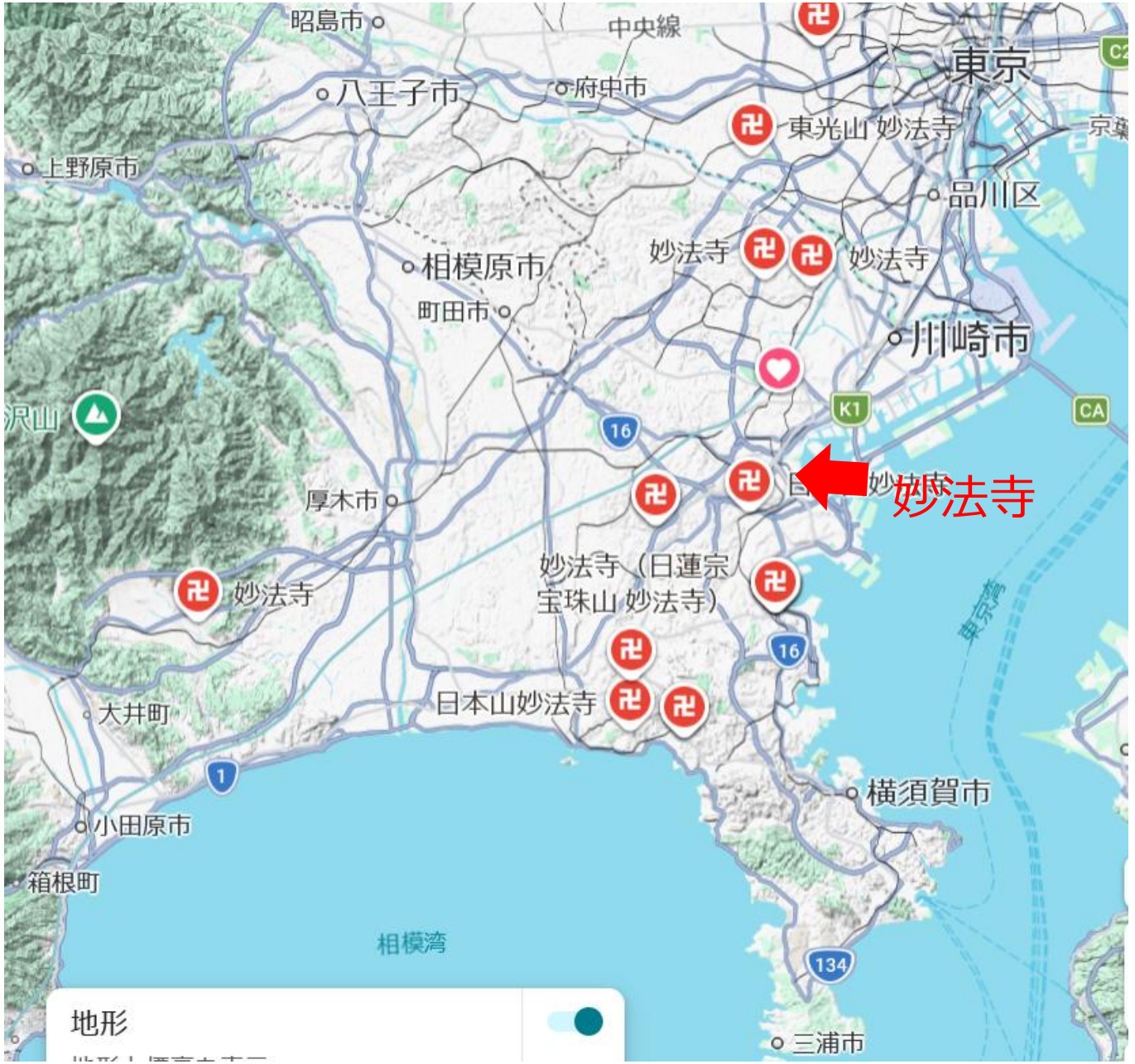
https://shunsaika.yokohama/lp/umematsuri

歌川広重（初代）
「武州杉田の梅林」
嘉永5年(1852)



制作年代 嘉永5年(1852) 作者名/落款 歌川広重（初代）/広重画

https://shunsaika.yokohama/lp/umematsuri


昭島市
中央線
東京
八王子市
府中市
東光山 妙法寺
上野原市
品川区
妙法寺
妙法寺
相模原市
町田市
川崎市
沢山
16
K1
CA
厚木市
妙法寺
妙法寺（日蓮宗
宝珠山 妙法寺）
16
日本山妙法寺
大井町
1
横須賀市
小田原市
箱根町
相模湾
134
三浦市
地形

歌川広重（初代）
「武州杉田の梅林」
嘉永5年(1852)



制作年代 嘉永5年(1852) 作者名/落款 歌川広重（初代）/広重画

https://shunsaika.yokohama/lp/umematsuri

渓斎英泉
「花名所 東百景 杉田之梅林遠景」
19世紀前半



国立国会図書館デジタルコレクション

キーワード



099455−000−2

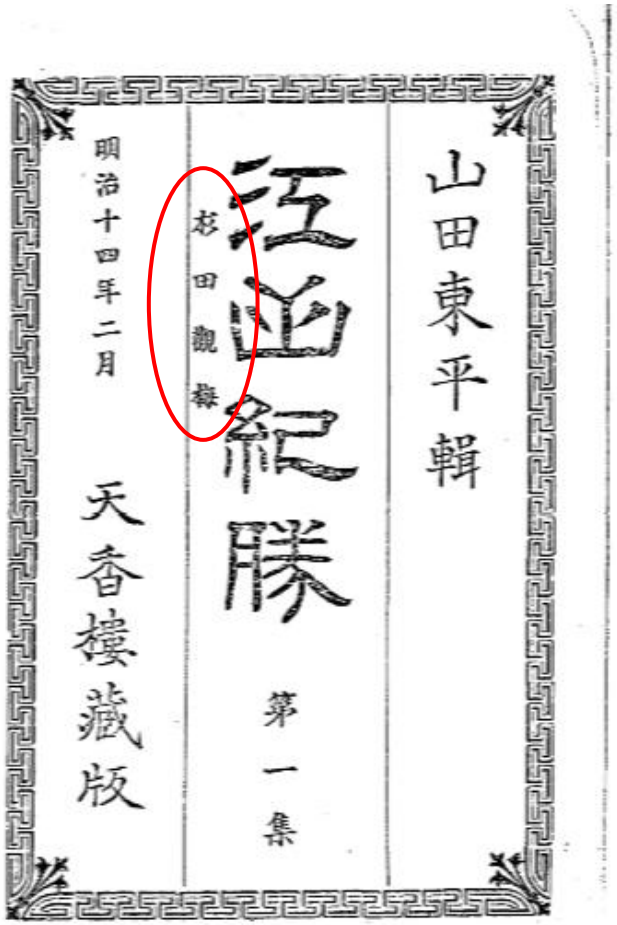
67−82

江山紀勝 第1集

杉田 観梅／著

M14

DBV−1951


山田東平輯

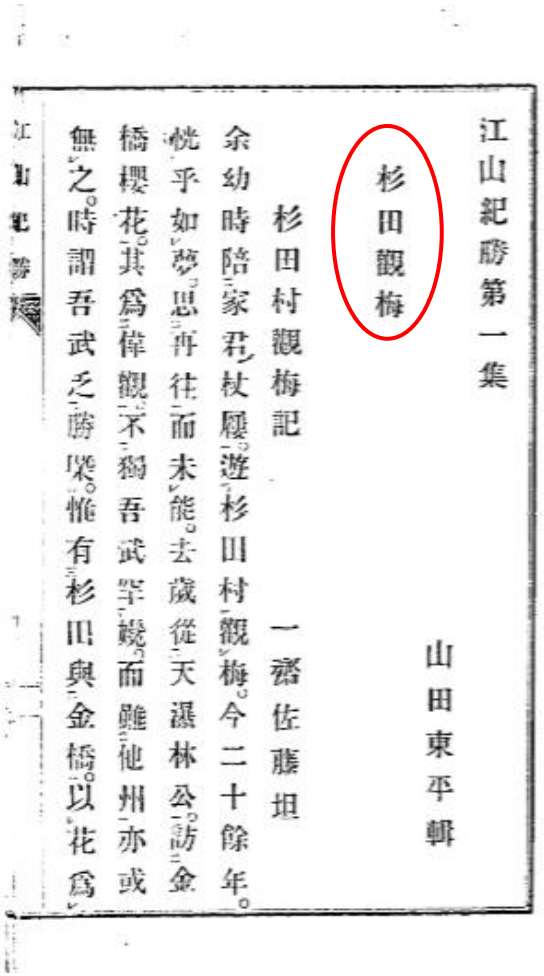
江山紀勝

杉田觀梅

第一集

明治十四年二月

天香樓藏版


江山紀勝第一集

杉田觀梅

山田東平輯

杉田村觀梅記　一齋佐藤坦

余幼時陪家君杖屨遊杉田村觀梅今二十餘年恍乎如夢思再往而未能去歲從天瀑林公訪金橋櫻花其爲偉觀不獨吾武罕儗而雖他州亦或無之時謂吾武乏勝槩惟有杉田與金橋以花爲

杉田観梅

大沼枕山
（一八一八―一八九一）

壬寅孟春十有三日、拉子世遊杉田。時風雪大作、就農舎、看梅花。花未放。春寒殊甚、呵筆書。

『江山紀勝』第一集

一蓑衝雪向山陲
忍凍尋梅也是痴
縦得千林春似海
問君何及此游奇

（３）杜甫の営み

杜甫の人生

『杜甫全詩訳注（四）』所収の古川先生の年譜による

七一二　鞏県または洛陽に生まれる
七四一　このころ楊氏と結婚
七四四　李白に出会う
七五〇　このころ長男生まれる
七五四　家族を長安に呼び寄せる
　　このころ次男生まれる
七五五　家族を奉先に預ける
　　官職を得る
　　安史の乱（七六三年まで）
　　家族と鄜州に移住
七五六　捕らえられ長安へ
七五七　長安を脱出、鳳翔へ
　　家族を迎えに鄜州へ
七五九　官を辞す
　　以降、定住と流浪の日々
七七〇　没

杜甫の家族

妻　楊氏

長男　宗文（熊児）

次男　宗武（驥子）

幼子（七五五年没）

娘

娘


酒泉市
甘粛
銀川市
天津
大連市
평양
宁夏回族
自治区
西宁市
山西
济南市
青岛市
大韓民国
陕西
黄海
中華人民
共和国
福岡
西安市
長安
南京市
成都市
成都
武汉市
杭州市
重庆
臺北
昆明市
Googleマップより

七五五年冬
自京赴奉先県
詠懐五百字（抜粋）

入門聞号咷
幼子飢已卒
吾寧舎一哀
里巷亦嗚咽
所愧為人父
無食致夭折
豈知秋未登
貧窶有倉卒


酒泉市
甘粛
銀川市
天津
大連市
평양
宁夏回族
自治区
西宁市
山西
济南市
青岛市
大韓民国
陕西
黄海
中華人民
共和国
福岡
西安市
長安
南京市
成都市
成都
武汉市
杭州市
重庆
臺北
昆明市
Googleマップより

〔資料3〕七五七年春

春望

国破山河在
城春草木深
感時花濺涙
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵万金
白頭掻更短
渾欲不勝簪

七五七年春

憶幼子

驥子春猶隔
鶯歌暖正繁
別離驚節換
聡慧与誰論
澗水空山道
柴門老樹村
憶渠愁只睡
炙背俯晴軒


酒泉市
甘肃
银川市
宁夏回族
自治区
西宁市
海
山西
陕西
中華人民
共和国
鳳翔
西安市
長安
天津
大连市
평양
大韓民国
济南市
青岛市
黄海
福岡
南京市
成都市
成都
重庆
武汉市
杭州市
昆明市
臺北
Googleマップより

七五七年夏
述懐一首（抜粋）

寄書問三川
不知家在否
比聞同罹禍
殺戮到雞狗
山中漏茅屋
誰復依戸牖
摧頽蒼松根
地冷骨未朽
幾人全性命
尽室豈相偶

七五七年夏
述懐一首（抜粋）

欽岑猛虎場
鬱結迴我首
自寄一封書
今已十月後
反畏消息来
寸心亦何有
漢運初中興
生平老耽酒
沈思歓会処
恐作窮独叟

七五七年秋
得家書（抜粋）

去憑遊客寄
来為附家書
今日知消息
他郷且旧居
熊児幸無恙
驥子最憐渠

七五七年秋
北征（抜粋）

況我堕胡塵
及帰尽華髪
経年至茅屋
妻子衣百結
慟哭松声回
悲泉共幽咽
平生所嬌児
顔色白勝雪
見耶背面啼
垢膩脚不韈

七五七年秋
北征（抜粋）

牀前両小女
補綻才過膝
海図坼波濤
旧繡移曲折
天呉及紫鳳
顛倒在裋褐
老夫情懐悪
嘔泄臥数日
那無嚢中帛
救汝寒凜慄

七五七年秋
北征（抜粋）

粉黛亦解苞
衾裯稍羅列
瘦妻面復光
痴女頭自櫛
学母無不為
暁妝随手抹
移時施朱鉛
狼藉画眉闊

七五七年秋
北征（抜粋）

生還対童稚
似欲忘飢渇
問事競挽鬚
誰能即嗔喝
翻思在賊愁
甘受雑乱聒
新帰且慰意
生理焉得説


酒泉市
甘粛
銀川市
天津
大連市
평양
宁夏回族
自治区
西宁市
山西
济南市
青岛市
大韓民国
陕西
黄海
中華人民
共和国
福岡
西安市
長安
南京市
成都市
成都
武汉市
杭州市
重庆
臺北
昆明市
Googleマップより

〔資料８〕七六〇年夏

江村

（成都）

清江一曲抱村流
長夏江村事事幽
自去自来梁上燕
相親相近水中鷗
老妻画紙為棋局
稚子敲針作釣鉤
但有故人供禄米
微軀此外更何求

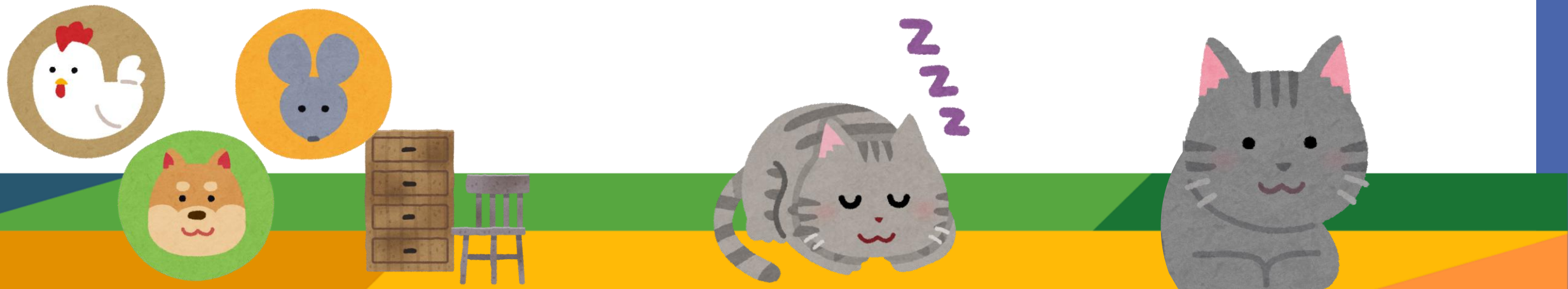
（４）そして猫

北宋・彭乘『続墨客揮犀』

ある日、龔冕仲の家で、牝鶏、犬、鼠、家財道具などの様々な怪異が一斉に起こった。

家の者が巫女を呼び、巫女に「この猫ぐらいですよ、怪異を起こさないのは」と語った。

猫が人のように立ち上がって「不敢」と言った。



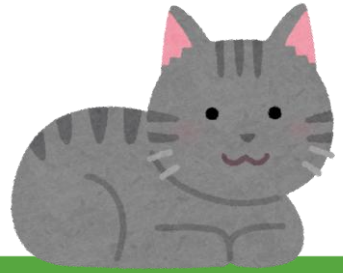
南宋・洪邁『夷堅志』支乙九

犬と猫を飼っていた僧侶が強盗に襲われ殺された。

犬は危険を冒して強盗を追跡し、懸命に人々に事件を知らせた。

猫は亡骸に寄り添って鼠に齧らせないように守っていた。





金・元好門『続夷堅志』巻四

犬と鶏と猫を飼っていた者が仙人になって昇仙した。

犬と鶏はお供して、一緒に仙界に行った。

猫は洞窟に残って、数百年経った今でもそこにおり、呼ぶと返事をする。



結び

（２）杉田の梅林

→今は失われた「観光地」の魅力を伝える資料

（３）杜甫の営み

→日常を記録するという行為が獲得される過程

（４）そして猫

→価値・情緒のデータベースとして機能する古典



ご清聴ありがとうございました